

一粒の梅ぼし

寒さ残る花春の頃

ウグイスともに

春告げ來るは梅の花

ミツバチ飛んでは

甘露を捧げ

あまたの訪花を頼ける

小暑になれば

実は膨らみ

日光浴びれば 頬赤らめ

機は熟して木から落ち

内実のぞけば

柔らか 清らか お淑やか

漬け込まれた體に宿す

幾多の労苦は

しわの数々

報いも知らず

無上のいのちへ

身実を手向ける